

会 議 録

会議名	平成27年度第2回宇都宮市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成27年12月25日（金）10：30～12：00
開催場所	宇都宮市役所14A会議室
出席者	<p>【委員】岡本芳明，久保井永三，黒子英明，篠崎圭一，中塚英範，狐塚貴博，出口明子，枝野悦子，大手弘子，島田弘二，石島孝夫，上野すみ子，阿部欣文，滝沢千春，村上和男 計15名</p> <p>【事務局】環境部長，環境部新施設整備推進担当参事，上下水道局技術担当次長，環境部次長，環境部清掃事業担当副参事，環境政策課長，環境政策課総務担当副主幹，環境保全課長，廃棄物対策課長，ごみ減量課長，廃棄物施設課長，農林環境整備課課長，下水道管理課長，下水道建設課長，生活排水課長</p>
公開・非公開	公開
傍聴者	1名（日刊建設新聞 1名）
議題	1. 宇都宮市一般廃棄物処理基本計画（素案）について
会議結果	1. 各委員から出された意見を反映して，素案をパブリックコメントで公表する。

主な質疑応答	
宇都宮市一般廃棄物処理基本計画（素案）について	
久保井委員	公共用水域の水質状況について，具体的な資料はあるか。
事務局	18河川を調査しており，御用川については若干環境基準を上回っている状況となっている。
中塚委員	<p>生ごみの半分以上を占める「もったいない生ごみ」の削減について，周知徹底を図っていくとの事だが，フードバンクの活用などについてどのように考えているか。</p> <p>また，プラスチックごみについて，プラスチック製容器包装ではないプラスチック製品の廃棄に関する周知がうまく行っていないのではないかと思うが，これらの状況や考え方を教えていただきたい。</p>
事務局	<p>フードバンクについては，「もったいない生ごみ」の削減を図っていく上で有効な施策の一つであると考えていることから，その活用についても検討していきたいと考えている。</p> <p>プラスチックごみに関して，プラスチック製容器包装については，分別して資源化するという仕組みがあるが，プラスチック製品については，そのような仕組みがないことから焼却ごみとして処理している状況である。素材としては同じプラスチックになることから，資源化の仕組みができないか今後の検討事項になる。</p>
久保井委員	計画の主な取組に，災害時における災害廃棄物への対応が掲げられているが，災害時にはごみを分別しないで車に積んでいる状況だと思うが，降ろす時に分別をする体制作りなどはとられているのか。

事務局	<p>災害の種別によって、発生するごみの内容も変化してくる。地震災害時には瓦礫などがほとんどだが、今年発生したような大雨災害では、漂流物など多様なごみが発生した。家電製品やタイヤなど、通常時には市の施設では処理できない物も混入してくるが、まず災害現場をきれいにするのが最優先となることから、一度仮置場に集める際に、大まかな分別はお願いするものの、細かい分別は収集後になると考えている。</p>
阿部委員	<p>し尿浄化槽汚泥の処理計画の中で、平成27年から28年にかけて浄化槽汚泥が増加する見込みとの事だが、どのような要因で浄化槽汚泥が増加すると予想しているか。</p> <p>また、生ごみについては、事業系ごみも宇都宮市内で処理する場所がなく、事業者・収集運搬業者ともに、どこに持って行って処理すれば良いか悩んでいるところである。生ごみの処理について、発生抑制を進めていくというのが大前提だと思うが、処理場の検討などはしているのか。下水処理場においてバイオガス発電などを行っているところでは、エネルギー源として生ごみを入れるということを実施している市町村もあると聞かすが、そのようなことは考えているか。</p>
事務局	<p>短期見通しで浄化槽汚泥が増える点については、処理施設の統合などにより、一時的には汚泥が増加するが、長期的には減少すると予想している。また、現状の汚泥は、東横田清掃工場の処理量を表記しているが、将来的には、時期は未定であるが、下水道との一体処理が始まるということを見込み、汚泥量を設定したところである。</p>
事務局	<p>生ごみの処理施設については、行政による整備という方法と、民間の処理施設の活用という方法があるが、行政にて施設を作ることについては、様々な課題があることから、現時点では具体的な考え方というのはない状況である。生ごみをどうしていくかということについては、市内には生ごみを資源化できる施設はないものの、近隣の市町村には受入れ可能な施設もあることから、そのような施設の協力も受けながら対応していきたいと考えている。</p>
滝沢委員	<p>剪定枝の資源化について、来年度の具体的な取組を教えてください。計画案では参考指標としてリサイクル率を掲げており、バイオマスなどの資源循環利用の調査研究を進めていくとなっているが、具体的にどんなことを考えているのか、今後の進め方を教えてください。</p>
事務局	<p>剪定枝の取組については、今年度、試験的に年間約90tの剪定枝を市民の皆様から持込んでもらい、それをチップ化して配布を行ったところである。具体的な数量は未定であるが、来年以降はそれを増加させていければと考えている。</p> <p>リサイクルについては、リサイクルに取組みやすい環境づくりの推進を踏まえ、回収拠点の充実や、剪定枝などバイオマスの新たな資源循環利用、防水加工をされている紙類などの資源化を検討していく予定である。</p>
滝沢委員	<p>すばらしい取組だと思うので、今後も積極的に市民に広めていただきたいと思います。</p>

<p>篠崎委員</p>	<p>分別については、限界に近づいており、更に細分化してもそれ程の削減効果は見込めないのではと考えている。そのような中で、木・草・葉類などをどうしていくのか。バイオマス発電などの研究や、草と枝を市民に分別してもらい、草は自然と堆肥になることから無料で配布するなどの方法も良いのではと考えている。</p> <p>また、過剰包装についても取上げていくべきと考えている。リユースとカリサイクルではなく、発生自体を抑制していく。過剰包装への対応を計画に明記していただきたい。</p> <p>また、衣類のリユースについては、災害時などにリユースした衣類を届けても着てもらえない状況がある。潔癖症などの要因によるものであると思う。教育機関などと連携をとり、そのような風潮を改めていかないとリユースは難しいのではと考える。環境キャンペーンなどにより、全市的に子供の頃からリユースを徹底していくことで、多くの課題の解決につながるのではと考えている。</p> <p>次に、現在の焼却施設の耐用年数はどれくらいなのか、また、施設を建替える場合は同一敷地内でできるのか。同一敷地内で施設を更新していくという考えが最も管理しやすいと思うが、そのような考えがあるのか教えていただきたい。</p> <p>また、下水に雨水が混入することによるロスがかなりあると聞いているが、それは今回のこの下水処理の計画値とは関係ないのか。もし関係あるのであれば、今後その対応はどうして行くのかということをお聞きしたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>バイオマス系の資源化については、現在は剪定枝のチップ化を行っているが、バイオマス発電などの多様な資源化手法もあることから、そのような方法も含めて、効果的な資源化手法について検討していきたい。</p> <p>過剰包装については、計画案においても「簡易包装の推進」の部分で取上げており、事業所と連携した過剰包装の抑制や、ばら売りとか量り売りの推進により、減量を進めていきたいと考えている。</p> <p>また、教育機関との連携については、「環境教育の推進」の部分で取上げており、環境出前講座や、施設見学会などの実施により、次世代を担う子供達に対する環境教育に取り組んでいきたいと考えている。</p>
<p>事務局</p>	<p>焼却施設については、現在、中間処理施設として、クリーンパーク茂原と南清掃センターの2箇所が稼働中である。クリーンパーク茂原は平成13年稼働開始のため、まだ耐用年数があるものの、南清掃センターは昭和63年稼働開始であり、更新時期をまもなく迎える状況である。以前は3箇所の清掃工場にて処理を行っていたが、ごみ量が減少していることから、現在、休止中である北清掃センター跡地に、南清掃センターと北清掃センターを併せた新施設の整備を計画している。施設の更新については、旧施設が稼働中の場合は、新旧施設の用地の確保ができれば、同一敷地内での更新も可能となる。</p>
<p>事務局</p>	<p>雨水の浸入については、施設が古くなってきたということで、管きょのつなぎ目からの雨水の浸入などが現状である。下水道事業は企業会計で賄っており、下水道使用料で処理施設等を運営している。無駄な水の処理をすることがないように、調査を行い、浸入水の箇所を特定し、有収率向上計画という短期的な5か年計画を掲げながら、浸入水の箇所を対策し、更なる有収率の向上に向けて局全体で取り組んでいるところである。</p>
<p>篠崎委員</p>	<p>特に環境教育については、最重点の施策だと思っているので、重点事業への位置付けの検討をお願いしたい。</p>

村上委員	<p>小学校にて学校業務の仕事をやっているが、環境教育やごみの減量などについて、大人が子供達に模範を示さなければならない部分が多々あると思う。大人の教育も必要だが、将来を担う子供達に対する環境教育については、更に拡充してってもらいたい。その中で、教育委員会と連携が必要な部分もあるかと思うが、清掃工場の施設見学などについて、教育委員会との連携はとられているのか。</p>
事務局	<p>清掃工場の見学については、小学校4年生の全員がクリーンパーク茂原の工場見学を実施している。引続き教育委員会とも連携しながら、ごみを身近に感じてもらい、ごみに関する理解・関心を深めていってもらいたいと考えている。</p> <p>また、社会科教材ということで、私立も含めた市内の小学校4年生を対象とした社会科の「私たちの暮らしとごみ」という補助教材を作っており、学校の授業の中でも活用してもらっている。</p>
村上委員	<p>工場見学については、年代によって感じ方も違うと思うことから、中学生にて、再度実施してほしい。</p>
島田委員	<p>ごみの収集・運搬、焼却に関する費用、最終処分をどのように抑制するかというのが最大の課題かと思うが、そのためには市民の理解と協力が絶対必要となる。そのためにリサイクル推進員に協力していただいている。そういう人たちに地域に対する施策をお願いする際に、施設見学などが大事なポイントになるのではと思うが、昨年からは休止となっている。今までは、毎年各地区でも施設巡りなどにより、理解を深めてもらっていたが、休止している理由を教えてください。</p> <p>また、家庭用の生ごみ処理機の普及や、廃食用油の再生利用が停滞気味ではないかと考えているが、何か意識付けが必要ではないか。</p>
事務局	<p>以前、広く地域の住民を対象とした施設見学会を開催していたが、地域でキーマンとして活躍をしてもらおうリサイクル推進員等の参加率が低かったことから、リサイクル推進員やチーム委員に重点的に施設見学会に参加してもらい、現状に対する理解を深めてもらうよう体制を変更したところである。それぞれの地域については、街づくり補助金を活用しながら、各地域で取組んでもらうようお願いしているところであり、相談があれば、ごみ減量課に連絡をいただきたい。</p> <p>生ごみ処理機の普及や、廃食用油の再生利用については、実際に利用者が少なくなっているが、制度自体を知らない方もいるという現状もあることから、広報紙や、スマートフォンのアプリなどのあらゆる媒体を通じて、制度の普及を図っていきたいと考えている。</p>
出口委員	<p>自分も環境教育に関わっており、大人が見本を見せるとか、施設見学に行くとかは大事な事だと思うので、引き続き取組をお願いしたい。また、環境教育というのは、何十年も続けられてきたことであり、環境問題についても、現在とこれからは内容も変わってくると思うことから、引き続き環境教育の体制を整えていただきたいと思うと共に、私達も実践レベルで取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>また、焼却ごみにおける布類の割合が増加しているとのことだが、最近ファストファッションが流行していて、安く手に入るため、簡単に手放してしまうことが背景にあるのではと思う。取組の中に、衣類のリユース促進のための事業スキームの検討・構築というのがあるが、具体的にどのようにいつごろを目処に考えているのかが明確になると良いと思う。民間のファストファッションのショップなどに、不要になった衣類の回収ポストなどが置いてあったりするが、そういうものと関連をどう考えているか教えてください。</p>

事務局	<p>衣類のリユースに関する具体的な取組については、リユースショップというものの情報提供の他に、現在焼却されている衣類に限らず、革製品や、綿入りのものなどをリユースできないかということを進めていきたいと考えている。具体的に何時からどのように取組むということは現時点では未定であるが、現在は焼却ごみとして廃棄されているものでも、回収拠点の設置や、民間のリユースショップとの連携などにより、リユースを進めていければと考えている。</p>
中塚委員	<p>自分も環境教育については、重要であると考えている。大人が模範を示していくというのはもちろんだが、他国では、学校教育の中に環境教育を組み込み、子供がそれを学んでそれぞれの家庭で実践することで、環境大国になっていったというような事例も聞いている。計画期間も15年という長期計画であり、子供達が環境意識をしっかりと持って成長していくことで、15年後にしっかりとした成果としてつながっていくと思う。このため、環境教育については重点事業への格上げを提案したい。</p> <p>また、フードバンクの活用については、小さな組織であるため、市にて周知をしてもすべてを対応しきれものではないと考える。行政でもリサイクルの収集のあり方や、体制作りをしっかりと検討した上で、単にごみを削減するというだけでなく、生活困窮世帯の支援につながっているという社会貢献の意識も併せて伝えていくことで効果が上がると思うことから、よろしくお願ひしたい。</p>
事務局	<p>環境教育については、子供達が状況を認識しながら大人になり、社会に広がっていくというのが一番望ましい形だと考えることから、教育委員会とも協力しながら進めていきたい。計画の位置付けについても、重点事業にできるよう、具体的な取組も含めて検討していきたい。</p> <p>フードバンクについても、具体的な体制というものが、民間のNPOだけでは困難な部分もあると思われることから、「もったいない生ごみ」がうまく流れるような手法についても、検討していきたいと考えている。</p>
滝沢委員	<p>クリーンパーク茂原にて、施設見学の案内をさせていただいている。宇河地区の小学4年生は必ず見学にきてもらい、親よりも知識を豊富にして帰っていただいているところである。一つ気になっていることは、すばらしい副読本があるにも関わらず、実際の教育の現場で読まれて来ていないと思うことが多い点である。予算をとって作成したものであるもので、きちんと読んでいただいた上で、見学にきていただくと更に理解度が増すと思う。また、クリーンパーク茂原は今年教科書にも取り挙げられ、すばらしい施設ということで紹介されてもいるので、中学生なども含めて是非見学にきていただきたい。</p>
上野委員	<p>今後15年の間に、高齢化や、空家の増加が進行すると考える。建物の老朽化による取壊しなど、現在計画で想定している以上にごみが発生する可能性があることなどについても、将来的に審議会にて議論する必要が出てくると考える。行政には、そういう意識も持っていただければと思う。</p>
事務局	<p>ごみ量の推計では、そのような状況をどこまで反映できるかわからないが、超高齢化などの要因により、ごみが想定以上に増加するという環境もあるということも念頭において、今後の計画改定に取り組んでいきたい。</p>

主な質疑応答

その他

黒子委員	温暖化対策が喫緊の課題になっていると思う。2020年までに特定フロンガスの代替が必要になることから、機械の交換が必要となる場合も出てくる。民間においても相当数の機械がある中、経営の苦しい企業等では交換がなかなか進まないのではないかと考えている。そのような点も考慮し、機械の交換が円滑に進むよう対策をお願いしたい。
久保井委員	剪定枝は毎年発生するものであり、チップパー機については、可能であれば多く購入してもらい、市民にも貸付けるなどして、チップ化を推進していくのが良いと考えるが、今後増やしていく予定はあるか。
事務局	剪定枝のチップパー機については、市が購入して市民に貸出した実績はこれまではないものの、剪定枝の資源化を図る上で、チップパー機を市民に活用してもらうことも有効な手法の一つであると考えている。アンケートなどの実施により、潜在的な利用者ニーズなどを踏まえながら検討していきたいと考えている。